

移転と増築

かくして生れ出た芦屋中学校は、誕生早々難関に逢着した。それは新校舎問題である。五月二十六日の新聞記事を見よう。

芦屋中学 精道第五校を新設して食容

今春新設の県立芦屋中学はとりあへず六籠荘の岩園小学校に同居して開校したが、これは大体地元精道村が百万円寄附、県が廿万円支出して建設費百廿万円で六籠荘国際ホテル西側の林地を拓いて建てられることになっていたが、肝心土地所有者宮林君が先年の大水禍の苦い経験などに照し合せて同土地の提供を快く納得せず、このまま荏苒日を空らしめては来春にはとりにくい間にあはず、さりとて岩園校は現在ですら校舎の狭隘をかこっていることであり、来春の新学期にはもちろん飽和状態となって県立芦屋中学の立退きは必至であり、地元精道村としてもすてて置けないので二十五日午前十時から村会協議会をひらき「いったいどうする？」について全議員が意見をたたかわした結果、かねて増築を計画し事業のため鉄筋建の校舎建築が思わしくないので一時中絶となつて精道第五小学校をやはり打出のガスタンク西に新設、すでに同所に三千坪余を盛土をし敷地工事も出来上つてをることでもあり、早急木造校舎を建て、第五小学校の開校とともに自分の間芦屋中学をここへ食容させ、そのうちによき候補地を見つけて本物の校舎を新築することに話がまとまり、近く正式に村会を開会し確定することになった。

(一五・五・二六 大阪毎日新聞阪神版)

しかし、第五小学校の建設は、昭和十六年四月二十八日に漸く竣工の運びに至り、完成は昭和十七年の春でなくては望めない状態であったので、昭和十六年は、岩園校の教室を更に五教室借りて居する事になった。そして、昭和十七年三月十二日に、打出の第五小学校へ引越し、この校舎を、当分芦屋中学の専用校舎として使用する事になった。

入試も新校舎で―芦屋中学お引越し

「ワッショ、ワッショ」引越した……県立芦屋中学は岩園国民学校で二年間居候授業を続けてきたが、打出浜にこのほど待望の新校舎が竣工したので十三日の終業式を前にきのふ十二日生徒総掛りで机や椅子を運び、荷車を輓いて嬉しい引越しを行った。来る十九日からの入試もこの新校舎で行われ、四月の新学期から気分も新たに授業を受ける。(一七・三・一三 大阪毎日新聞阪神版)

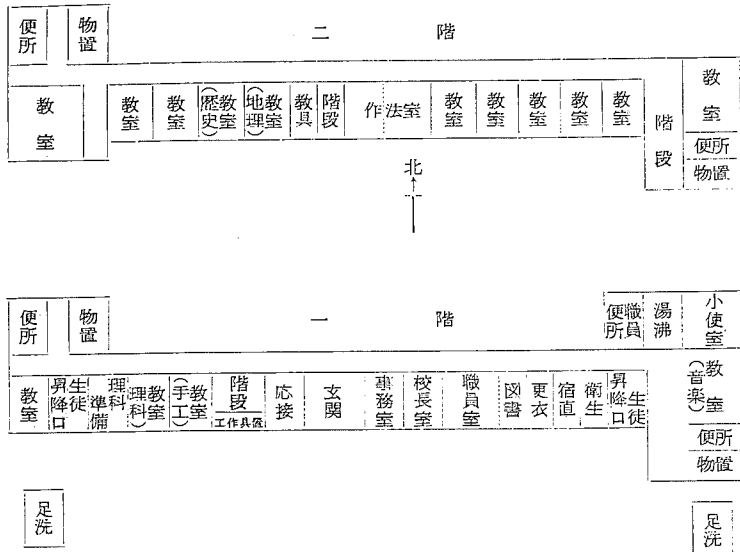
この校舎は、敷地総面積四八八・八九坪、総建坪九六四・七坪(一階五一三・三二坪、二階四五一・四八坪)の木造二階建校舎であつて、教室教一六に職員室、校長室、衛生室等であつた。

(次頁平面図参照)

更に、昭和十七年十一月二十一日には、東側に増築工事が始まり昭和十八年に、二階建木造十七教室の増築が完成した。

一方、六籠荘国際ホテル西の新校地は、宮林君の了解が遂に得られず流産に終り、芦屋天神裏の一万坪が、これに代つて校地に決定された。しかしながら、この土地は、河川のつけ替えを要し、なかなかの大工事であつたため、ほとんど工事に着手しないままで太平洋戦争に突入し、遂にこの案も流れてしまつたのである。

打出校舎平面図



報 国 団 の 結 成

打出校舎に移ってからは、戦時色に塗りつぶされた歴史である。校友会は、すでに昭和十六年五月五日の開校記念日を期して報国団に切換えられており、当時の報国団の活動は、次に掲げる部編成から見ても、随分戦時色の濃いものであった事が伺われる。



総務部 庶務会計班 企画統制班
 鍛錬部 角道班 陸上競技班 水泳班 球技班 鐵道班 柔道班
 國防訓練部 滑空班 國防競技班 ラッパ鼓隊 射撃班
 学芸部 図書班 美術班 科学研究班 興亜研究班 郷土研究班 講演班
 生活部 工作農芸部 保健班 配給班
 打出校舎に移った年の昭和十七年には、渡辺周治(当時三年生)が朝日新聞の航空論文に応募入選し、グライダー駒鳥を贈られ、これによって芦屋中学の滑空熱は傾に上がり、滑空班は藤田教諭指導のもとに活発な活動を行った。そして、披露の時には、山本校長をはじめ全職員がグライダーを操縦して、意気軒昂たるものがあつた。



滑 空 班 訓 練